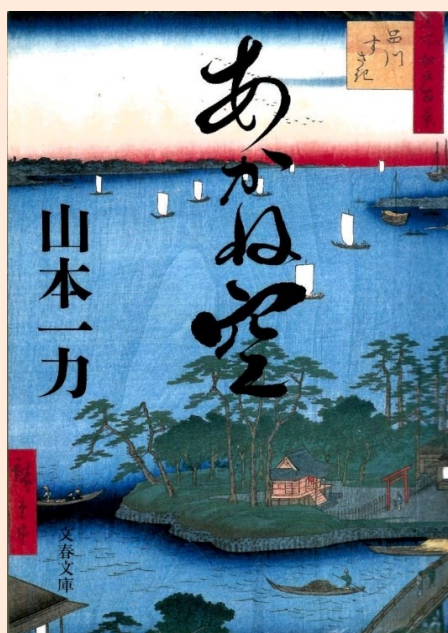


『あかね空』 文藝春秋
山本 一力(いちりき)／著

江戸で豆腐屋を始めるため、京から深川蛤町(はまぐりちょう)にやってきた職人・永吉。だが、京風の柔らかい豆腐は、固い木綿豆腐が主流の江戸では、なかなか売れない。やがて同じ長屋のおふみと夫婦になり、一緒に「京や」をもり立てていく。3人の子に恵まれ5人家族となるが、長男の怪我をきっかけにおふみの長男への偏った愛情が家族の間に確執を生むことになる。



永吉一家がさまざまな困難に相對する姿には、時代小説の枠を超えて現代に生きる私たちにも家族の在り方を考えさせられる。悩み苦しみながらも幸せをつかんでいく家族の絆の物語。

第126回直木賞受賞。